

令和4年度 秋期
システム監査技術者試験
午後II 問題

試験時間	14:30 ~ 16:30 (2時間)
------	---------------------

注意事項

1. 試験開始及び終了は、監督員の時計が基準です。監督員の指示に従ってください。
2. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
3. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があつてから始めてください。
4. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問1, 問2
選択方法	1問選択

5. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
 - (1) B又はHBの黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
 - (2) 受験番号欄に受験番号を、生年月日欄に受験票の生年月日を記入してください。
正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。生年月日欄については、受験票の生年月日を訂正した場合でも、訂正前の生年月日を記入してください。
 - (3) 選択した問題については、次の例に従って、選択欄の問題番号を○印で囲んでください。○印がない場合は、採点されません。2問とも○印で囲んだ場合は、はじめの1問について採点します。

[問2を選択した場合の例]

選択欄	問1	問2
	1問選択	

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要”の
記入方法

あなたの所属部門と，あなたが担当した主なシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要について記入してください。

質問項目①，③，④，⑥～⑪は，記入項目の中から該当する番号又は記号を○印で囲み，必要な場合は（ ）内にも必要な事項を記入してください。複数ある場合は，該当するものを全て○印で囲んでください。

質問項目②は，あなたが担当した主なシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の名称を記入してください。

質問項目⑤は，（ ）内に必要な事項を記入してください。

問1 情報システムの個別監査計画と監査手続について

企業などの組織は、主力ビジネスを支える基幹システムや新規ビジネスを支援する情報システムなど、多様な情報システムを管理している。このような情報システムを対象とした個別監査計画では、システム監査を実施する上での重点項目・着眼点を適切に設定し、これに対する必要な監査時間・監査費用などの監査資源を見積もり、適切な監査手続を作成することが求められる。

重点項目・着眼点の設定においては、情報システムの特徴、リスク評価結果、経営層の期待、過去の監査結果などを踏まえて、検討する必要がある。さらに、監査実施におけるテレワーク環境や監査資源などの監査上の制約についても検討し、その制約を踏まえて、監査の結論を誤る監査リスクを明確にする必要がある。

監査リスクを明確にするためには、システム監査人が本来必要と考えた監査手続と、その監査手続が監査上の制約によって実施できないことで生じる監査リスクを関連付ける必要がある。その上で監査リスクを低い水準に抑える対応方法を検討する。状況によっては、現場訪問や資料の直接閲覧などの監査手続が実施できない場合がある。その場合、例えば、資料を PDF ファイルで入手するだけでなく、PDF ファイルの真正性を原本と同程度に確保するのに必要な監査証拠を入手するための監査手続を作成するなどの対応が必要となる。

システム監査人は、以上のような点を踏まえ、監査実施上の重点項目・着眼点を適切に設定し、監査上の制約下においても監査リスクを低い水準に抑えるために十分な監査証拠を得られるように個別監査計画を策定する必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～設問ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが携わった情報システムの概要及びその特徴、並びにシステム監査の個別監査計画の概要について、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた個別監査計画で設定した重点項目・着眼点及び想定した監査上の制約について、700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで想定した監査上の制約を踏まえて、実施できない監査手続及びそれによって生じる監査リスク、並びに監査リスクに対応するために作成した監査手続について、700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

問2 システム障害管理態勢に関する監査について

ビジネスを取り巻く環境が大きく変化する中、企業などの組織は、事業の再編、新規市場への参入、提供するサービスの高度化などによって、競争力を高めていくことが求められている。そのためには、例えば、既存の情報システムを統合又は連携させたり、外部組織が提供する情報システムを利用したりするなど、情報システムの変更が必要になる。最近では、API 接続などによって、外部組織の情報システムと連携するための変更を行って、付加価値を高めている事例も増えている。

一方、情報システムの変更によってシステム構成などが複雑になると、システム障害が発生する可能性が高くなる。また、システム障害がどの箇所でいつ発生するのかの予測も困難であり、外部接続先の情報システムの障害による影響なども想定される。さらに、既存システムには、ソフトウェアの肥大化、複雑化、保守サービスの終了、運用・保守人材の不足などの問題もある。

このような状況において、システム障害管理が不十分であると、障害発生時にサービスへの影響が拡大したり、根本的な対策が実施されずに障害が再発したりするおそれがある。したがって、情報システムの変更を踏まえて、障害に対する基本方針、体制、訓練、見直しなどのシステム障害管理態勢の構築が重要になる。

システム監査人は、以上のような点を踏まえて、変更後のシステム障害管理態勢に関する着眼点を設定して、適切かつ十分な監査証拠を入手し、実効性のあるシステム障害管理態勢が構築されているかどうかを確かめる必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～設問ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが関係する組織が提供するサービスを支える情報システムについて、変更の内容、システム障害によってサービスへの影響が拡大する要因、及び変更後のシステム障害管理態勢の概要を、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた要因を踏まえて、システム監査人として、システム障害管理態勢の実効性を確かめるために設定すべき着眼点及びその設定理由を、700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた着眼点について、入手すべき監査証拠、及びその監査証拠に基づいて確かめるべき具体的な内容を、700字以上1,400字以内で述べよ。

[× 毛 用 紙]

[メモ用紙]

[メモ用紙]

6. 解答に当たっては、次の指示に従ってください。指示に従わない場合は、評価を下げる場合があります。

(1) 問題文の趣旨に沿って解答してください。

(2) 解答欄は、“あなたが携わったシステム監査、システム利用又はシステム開発・運用業務の概要”と“本文”に分かれています。“あなたが携わったシステム監査、システム利用又はシステム開発・運用業務の概要”は、2ページの記入方法に従って、全項目について記入してください。項目に答えていない場合、又は、項目間に矛盾があるなど適切に答えていない場合は減点されます。

(3) “本文”は、設問ごとに次の解答字数に従って、それぞれ指定された解答欄に記述してください。

・設問ア：800字以内

・設問イ：700字以上 1,400字以内

・設問ウ：700字以上 1,400字以内

(4) 解答は、丁寧な字ではっきりと書いてください。

7. 退室可能時間中に退室する場合は、手を挙げて監督員に合図し、答案用紙が回収されてから静かに退室してください。

退室可能時間	15:10 ~ 16:20
--------	---------------

8. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。

9. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いません。ただし、問題冊子を切り離して利用することはできません。

10. 試験時間中、机の上に置けるものは、次のものに限ります。

なお、会場での貸出しは行っていません。

受験票、黒鉛筆及びシャープペンシル（B 又は HB）、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計（時計型ウェアラブル端末は除く。アラームなど時計以外の機能は使用不可）、ハンカチ、ポケットティッシュ、目薬

これら以外は机の上に置けません。使用もできません。

11. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。

12. 答案用紙は、いかなる場合でも提出してください。回収時に提出しない場合は、採点されません。

13. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社又は各組織の商標又は登録商標です。なお、試験問題では、TM 及び [®] を明記していません。

©2022 独立行政法人情報処理推進機構